

# 化石NOW④

## 「化石のマーケット」の会場でもある 東京ECO動物海洋専門学校の 「博物館・恐竜自然史専攻」とは？



「DINOSAUR MUSEUM」はイベントなどでの開放のみ。



今回お話をうかがった副校長の江口仁詞さん。アロカントサウルスの骨格標本とともに。



この標本の配置、恐竜好きなら言わずもがなのもの。白亜紀前期の頂点捕食者であったアロカントサウルスが絶滅し、そののちに、白亜紀後期のティラノサウルス類が台頭してきたといわれる。

前ページの「化石のマーケット」の会場にもなっている、西葛西の「DINOSAUR MUSEUM」は、実は東京ECO動物海洋専門学校の校舎でもある。こちらの学校には、大変珍しい「博物館・恐竜自然史専攻」がある。そんな専攻コースを設置するアイデアを持ち、実現させてきたのが、副校長も務める江口仁詞さんだ。一体どういう学校で、なにが学べるのか、お話を伺った。

この「博物館・恐竜自然史専攻」は、恐竜、

博物館、化石、鉱物、爬虫類の業界を目指せる専攻として設置しました。

小学校で、恐竜や化石が好きな子の皆が、全ての科目が得意だとは限りません、得手不得手もあるでしょう。中学、高校では、進路選択で理系の大学に行くことが難しいという学生もいると思います。学びに早い遅いは無いと思います。好きなことで働くこと、仕事という物を通じて社会に貢献したい、自分も人も笑顔にしたい、という人に対しては、専門学校教育でもこの分野の選択肢があっていい

と思います。恐竜や古生物を大学での学問、大学院での研究をしている人たちの全てが恐竜や化石の仕事につくかというところではなく、多方面の職種でその学びを活かしています。恐竜は大好きだけど、大人になると研究や、博物館の学芸員にならなければ恐竜の仕事が出来ないのではないかと考えている人が多いですが、実際には、恐竜や化石に関わる仕事には多くの人たちの色々な職種が支えあって、成り立っていることを知って欲しいのです。皆さんそれぞれ大変な努力



恐竜や古生物の生態を、誕生から絶滅までの過程で順に並べたコーナー。標本もレプリカも含めた、実に濃厚なコレクションだ。注意深く見ていると、「どのように展示するか」という博物館の技法や考え方に基づいて並べられていることに気が付く。

をして恐竜に関わる仕事をされているのですが、一部の特別な人に与えられた特権が恐竜の仕事では無いと、自分にも出来ることがあると頑張っ欲しいのです。

本校の教育の基本は、好きなことで働く素晴らしさを知ってもらうこと。もちろん恐竜化石のことも以外にもビジネスマナーなど、社会人としての身構え・気構え・心構え、サービスとホスピタリティを学んで、コミュニケーション力を磨く事はとても大切です。

私は50歳です。第2次ベビーブームで

すから、1年に約200万人の同い年が産まれた時代だと聞いています。今は、1年に80万人程。自然発生的に存在する恐竜や動物が好きな子供達の数も減っていくでしょう。今のままだと、恐竜好きな子供達が減ってしまうのではないかと危惧しています。出生率が下がるなかで、恐竜好きの裾野は広がっていかない！

恐竜というコンテンツが「子供向け」と思っている大人もいるんじゃないですか？その大人達もきっと子供の頃は、恐竜図鑑や怪獣のおもちゃが大好きだった

のに……。

大人になるにつれて、憧れる対象が変わってきたのはなぜだろう？恐竜や怪獣があんなにかっこよかったのに、何時の頃からか将来の夢は「野球選手やサッカー選手になりたいとなること」に代わっていく事が自然なのでしょう？もしかしたら周りの大人が「恐竜とか怪獣やヒーローになれるわけないんだから」「現実的なお仕事を考えなさい」なんて言われた人もいるかもしれません。

どれだけ恐竜が大好きな子供でも恐竜



左から片野さん、吉田さん、石山さんの3名。当学校の4年制としての初めての卒業生になる予定。



恐竜展示の解説のアルバイトもしている石山さんのスカートの柄に恐竜への愛を感じる。



こうした爬虫類も含めて、50種類もの生物の飼育を行っている。



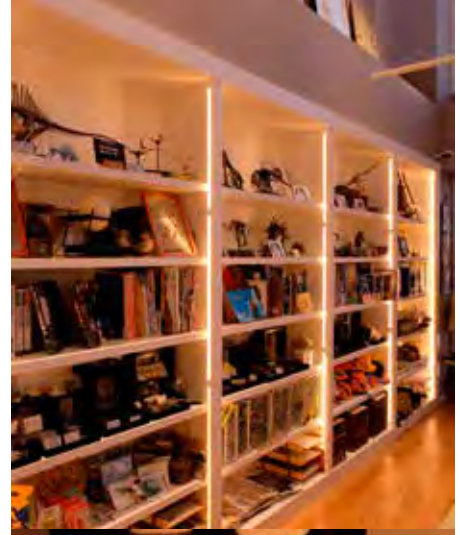
3Dプリンターを使っての実習も。



化石のクリーニング、プレパレーションの実習のための器具も驚くほど充実している。



岩手・南三陸への野外実習は毎年行われている。



図書室、休憩室にはさりげなく鉱物も展示されている。

になれないなんて事は分かっていますし、好きだけでは、好きな事だけではやっていけないんだと気が付くでしょう。

ですが、スポーツビジネスでは子供から大人まで夢中になっています。

あんな風に恐竜の業界でも子供も大人も一緒に大盛り上がりすることができたらすごいなっていつも考えていました。

そこで気が付いたのですが、サッカーが大好きな子が憧れるのは、サッカーボールよりもサッカー選手でしょう。野球が大好きな子は、バットやグローブよりもイチロー選手や大谷選手の様になり

たいって思うはず。当たり前ですが……。やはり、今を生きて輝いている人に憧れて、そうなりたいって想いが大人になっても続く。プロの選手になれなかったとしても、トレーニングのサポートをする人、グラウンドの管理をする人、たくさんの方が「好き」に関われる職種があって、それが分かりやすいのだと思いますし、ビジネスとして動くお金も桁外れに大きいです。大人があれだけ熱狂的になっていたら、それを見ている子供は、あんな大人になりたい！って思うのは当然です。

何が言いたいのかと申しますと、学生には、恐竜も大好きだけど恐竜の仕事をしているあの人の様になりたいって子供達に憧れてられて欲しいのです。

学校を見学に来る高校生に聞くんです。「仕事したい?」「働きたい?」と。

私とその年の頃は、早く働いて好きなものを買って、一人暮らしがしたいと思いましたが、どうもピンと来ないようです。好きな事を仕事にするというのは、自分の目標であり、欲望と言えるのだと思います。働くことが自分の欲望を満たすため?それが目的?何かが違うと感じてはいても、「目的」「目標」「方法」の違いを納得できるように伝える大人が身近にいないのかもしれませんが。

仕事を一生懸命楽しんでいる大人が身近にいないのです。

「今日はこんな人と会って、こんなものを作って、疲れたけれど面白かった!」

なんていう大人がどこにいるんだって

思うかもしれないですが、

私が、この仕事を通じて学生達に感じたい私の理想の姿がそれです。

学生からの最高の誉め言葉は、「先生楽しそうでいいね〜」とか「なんで先生が一番楽しそうなの?」とか、「この学校で働きたい」と言われることです。

仕事というのは「人」なんです。人がするんです。作業は機械に代わるかもしれませんが、仕事は「人が志を持って事を成す」という意味だと聞きました。恐竜や化石が働くのではないし、動物にお客様を集めてもらうばかりでは人間が依存しすぎです。人集めやビジネスは人間がやらなくてははいけません。

化石や恐竜の研究をして、真実を探求し、それを論文にまとめて発表するのは大学教育で、学問の一番素晴らしい事だと思います。なぜなら学問は「問うて学ぶ」コミュニケーションがあればこそ高めあえるからです。

仕事も同じです。ただ言われたことをやるのではなく、自分だけで考えないで「私はこう思うのだけれど、あなたならどう思いますか?」というように自分の考えから人に伝えてみてはどうでしょう? 答えを聞くのではなく、共に考え話し合い、より良くしていく事は、仕事でも「学問」だと私は話しています。捻じ曲げ過ぎでしょうか?

古生物は分からないことだらけですから、自分で考えることはたくさんあるでしょう?

学校にはアクロカントサウルスの骨格標本がありますが、たまにお客様に聞きます「あなただったらなにサウルスって名前を付けます?」って。

図鑑に書いてあることを一生懸命に覚えて、たくさん知識を持つことは大切ですが、教わることよりも、自分の分からない事や知らないことに気が付いて、誰かと考える事の楽しさは、覚えることの何倍も楽しいと思いますよ。

たとえどこかの本や、インターネットに正解があるとしても、あーだこーだと、恐竜が好きな人同士で考えるのはもっと

楽しいはずですよ。

ですが、忘れてほしくないのは、好きでは無い人も好きに変えられるよう頑張ってください!あなたが好きな事をしている時の笑顔で周りの人を巻き込んでください!子供の頃好きだったことをもう一度思い出してもらえるように!恐竜好きを増やすことができるのは、恐竜が大好きな「人」であり、その力で仕事ができる人が「プロ」なのだと思います。動物や植物の代わりに、絶滅して土に埋もれていた古生物達の代わりに、言葉を使って!文字で伝えて!絵で表現して!物を作って!身振り手振りを使って!表情をいっぱい出して!一番いいのはやっぱり笑顔ですね、動物の中で表情筋ができるのは「人間」だけですから。

何とんでも「命」があるからですよ。命がある同種に憧れて欲しいと思います。コミュニケーションも、まずは同種間でトレーニングしてから、他の動物とのコミュニケーションに挑戦してみたいかがでしょうか?例えば身近な犬や猫、馬などの動物とのコミュニケーションができれば、いつか物言わぬ物の声もちょっとだけ、他の人より聞けるかもしれません。

そしたらそれを自分の言葉にして、誰かに伝えてください。

これは動物の仕事の説明する時に話していることです。私にとっては恐竜の仕事も、「動物の仕事」の中の一つなのです。

TCA東京ECO動物海洋専門学校の特徴は、恐竜と化石、鉱物以外にも、現生の生き物を多く飼育していることです。

恐竜や化石を学ぶ学生であっても、カブトガニ、肺魚、サンショウウオにカエル、トカゲやヘビ、サソリやゴキブリなどなど、本校舎の哺乳類も合わせると、50種類以上の動物飼育に携わります。またこれらの生き物の飼育管理から、生物の基礎と古生物の共通点や違いなど、進化について「感じ」ながら学べます。授業には「機能形態」や「比較研究」の科目がありますから役に立ちます。

また、観察することで、過去に生きて

絶滅した生物の器官や動きを、実際の生物の動きに基づいて考えることができず。

それが標本製作にも役立ってきます。化石のプレパレーションにも生物の姿を観察できているかが、重要になってきます。標本もですが現生の生物の観察はとても重要です。

学校にもプレパレーションルームがあります。プレパレーションとは「準備をする」プレパレーター「準備をする人」の事です。化石や恐竜標本を展示するための台座を、木工やアクリル加工、金属溶接で作ったり、フォトグラメトリーを使った3Dプリンター出力も、展示のためのプレパレーションですね。

化石のクリーニングというのは、プレパレーションの一部です。化石をクリーニングする職業をプレパレーターといいます。しかし本校で私がプレパレーター「準備をする人」として、まず最初に学生に伝えていることは、「化石を見てくれる人をイメージする」ということです。標本の特徴を理解した上で、どのように見せたいか、お客様がどこを見てくれるだろうとか……、アカデミックな目線とビジネス的な目線の両方で考えます。見てくれた人がどう感じてくれて、興味を持ってくれたか? そのサイクルをP→D→C→Aに当てはめ考えてもらっています。その実践が「化石のマーケット」や、「親子の恐竜教室」だったりします。

好きな事に一生懸命になっている大人や仲間を見つけるのも実習の大切な要素ですし、学生がお客様から「ありがとう」と声をかけていただける事が、何よりの働く力です。私も、たまーにですが学生に褒めてもらえると、「明日も頑張ろう!」と思えますから。イベントでの展示販売に関われる事は最高の実習になっていますので、ぜひ「化石のマーケット」でお会いできればと思います。